

こうほう ショッキング

Vol.47

Kōhō shocking



うやま ただし
宇山 忠史さん

プロフィール

52歳。美津島町雞知出身、在住。対馬高校卒業後、専門学校で土木工学を学び環境設備の会社に入社。昭和61年に帰郷し、厳原病院（現長崎県対馬いづはら病院）に勤務。前回ご出演の松永さんとは病院が現在の場所に新築移転した際に知り合って以来のお付き合い。高校時代は野球部で汗を流し、現在はスローピッチソフトボールチームに参加するほか、休日には父から譲りうけた舟で釣りを楽しむ。母と妻、二女との5人暮らし。

対馬に戻ったきつかけは？

20歳そここの頃は都会の空気に憧れもありましたが、当時は「長男は実家に戻る」というのが宿命のようなものでしたから、25歳の頃には「ぼちぼち帰ろうかなあ」という気持ちながらも自然と浮かんできましたね。私が生まれた頃は人口も7万人を超えていて、漁も豊かで活力もあつた時代。同世代の人は、ある程度したら島に帰って家業を継いだり就職したりしていました。今はなかなか仕事が見つからないので、島外で働き続けて親が子どもとこころへ移住するケースが多いように思います。島民としては寂しいですね。

戻った頃のお気持ちはいかがでしたか？

生まれ育つた地ですから、周りに友達や親類がいるのはいろんな面で心強いし、人との繋がりに安心感を持ちました。一方で、欲しいものが手に入りにくいことや、職業柄医療に関しては離島の不便さを今も感じますね。

離島の医療に思うことは？

里帰り出産のため島外から帰郷される方にとつても、現在対馬いづはら病院以外に島内に産科がなく不安や不便さを感じていらつしやるでしょうし、脳外科領域の疾患については島内で

治療が出来ず、ヘリコプターで島外の病院に救急搬送している状況です。島内で治療出来るのが夢ですが、人口に対する病院の規模等を考えると難しい面がありますので、島外の医療機関へより短時間で搬送出来る体制の整備が求められるのではないのでしょうか。

これからの対馬に望むことは？

交通の便や医療の面など島内で整備してほしいことは山ほどありますが、それを言うときりがないですよ。人口も減っていくし、若者の雇用の場もほしいところですが、高齢化の進む対馬が安心・安全に暮らせる島になってほしいですね。また、国境の島という点でも、国外の不安要素に近い場所に住んでいるわけですから、市民自身も少し緊張感を持つことも必要ではないでしょうか。

昔の対馬と比べて変わった点も多いと思いますが？

韓国からの観光客が本当に増えましたね。嬉しいことですが、お互いの生活文化の違いなど理解が必要な点もあると思います。せっかくならコミュニケーションが必要ではないでしょうか。また、とんちゃん部隊の活躍で国内の認知度も上がってきたと思うの

で、国内旅行者にも期待したいですが、問題は交通費。対馬にはPRできる部分はまだまだまだたくさんあると思いますから、本土からの交通機関の価格がもっと手頃になって、対馬に旅行に来てもらいたいですね。

宇山さんの対馬のイチオシは？

やっぱり豊かな自然。対馬は海産物の宝庫ですよ。いちばんの鱈は、自分で釣ってきた魚をその日に晩酌しながら食べられること（笑）。でもほんとにあんまり大々的には言いたくないなあ。イチオシのものって、実は内緒にしておきたいものですよ。（笑）

釣りは昔からお好きでしたか？

子どもの頃はよく父に連れられて釣りに行っていましたが、朝早くから暮れ方までずつとなんですよね。遊びたい年頃にもなつてくるとそれが嫌になつて途中挫折しました（笑）。父が亡くなつて、残された舟でまた釣りを始めたんです。浅茅湾の外に出たりもします。最大の釣果ですか？…そこは秘密にしておきます（笑）。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は美津島町雞知にお住まいの伊藤修二さんです。お楽しみに。